

令和元年度

熊本駅前看護リハビリテーション学院
学校関係者評価報告書

令和元年度 学校関係者評価報告書

1 はじめに

学校法人青照学舎が運営する熊本駅前看護リハビリテーション学院の学校関係者評価委員会は、学校評価に関する関連法令に基づき、令和元年度の自己評価報告を基本とした学校関係者評価を実施いたしましたので、ここにご報告します。

学校関係者評価は、学校自らが選任した教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、学校運営の改善・強化、教育の質の向上、教職員の資質・能力の向上を図って参ります。

2 学校関係者評価について

(1) 目的

学校関係者評価は、自己評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また、生徒・卒業生、関係業界、職能団体、高等学校、保護者・地域住民など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善等を図ること等を目的とします。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か。
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策は適切か。
- ③ 学校の重点目標や自己評価項目等が適切か。
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か。

(3) 評価期間

2019年4月1日～2020年3月31日

(4) 評価結果の公表

- ① 評価結果や今後の改善方策等を取りまとめ公表します。
- ② 評価結果は、次年度の学校運営や教育活動等について具体的に改善を図ります。

3 学校関係者評価委員会について

(1) 活動内容

- ① 自己評価結果の評価
- ② 学校関係者評価委員会の開催

- ③ 改善意見、助言
- ④ 施設等の確認

(2) 学校関係者評価委員会の委員、事務局

① 学校関係者評価委員 8名

委員氏名	所属名	役職名
山口 里美	公益社団法人 熊本県理学療法士協会	理事
牛島 由紀雄	一般社団法人 熊本県作業療法士会	副会長
松村 光一	医療法人 桜十字 桜十字病院 リハビリテーション部	部長
田尻 威雅	医療法人 富尾会 桜が丘病院 作業療法室	室長
藤丸 由美子	独立行政法人 国立病院機構 熊本再春医療センター	看護部長
福山 裕士	熊本県立熊本農業高等学校	副校長
緒方 陽一郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院後援会	会長
池田 健志郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院同窓会	会長

② 学校関係者評価事務局（教職員） 9名

氏名	所属名	役職名
高野 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長
黒川 一也	熊本駅前看護リハビリテーション学院	副学校長
杉本 弥	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
白石 正行	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務顧問
川上 勝美	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務長
岡田 玉子	熊本駅前看護リハビリテーション学院	看護学科教務部長
有働 正二郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教務部長代理
緒方 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	理学療法学科長
大石 宝予	熊本駅前看護リハビリテーション学院	作業療法学科長

(3) 評価項目

- 基準1 教育理念・目的・育成人材像
- 基準2 学校運営
- 基準3 教育活動
- 基準4 学修成果
- 基準5 生徒支援
- 基準6 教育環境
- 基準7 生徒の募集と受入れ
- 基準8 財務
- 基準9 法令等の遵守
- 基準10 社会貢献・地域貢献

(4) 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 回答期間 : 令和2年6月4日(水)～6月19日(金)
- ② 開催方法 : 新型コロナウイルス罹患等防止のため学校関係者評価委員会の学校での一堂に会した開催を中止し、当該委員会については年1回の委員会開催が職業実践専門課程の認定要件として求められていることから、委員の皆様方のご意見を書面にて賜る形での開催に変更しました。
- ③ 回答者 : 学校関係者評価委員 8名
学校関係者評価事務局 9名
- ④ 議題・内容 : 職業実践専門課程に関する説明
学校概要(各学科別)
令和元年度自己評価結果についての説明

4 自己評価結果に対する学校関係者評価、委員の意見

(1) 自己評価結果に対する学校関係者評価委員の評価、意見等を実施状況に照らし、以下の5段階で記載した。

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題はあるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

(2) 委員の意見

学校関係者評価委員会での意見を各項目毎(基準毎)にまとめた。

5 評価項目毎の状況

評価項目の基準1～基準10までの状況は次のとおりです。

基準1 教育理念・目標・育成人材像	評価	ほぼ適切
-------------------	----	------

【委員の意見】

- ・教育理念・目標・育成人材像は、適切に定められ明記されている。周知においても文書化や会議で周知を図られている。
- ・ホームページやパンフレットでは学院の理念やカリキュラムなどについても明文化されており、学生や保護者、その他一般市民の方々にもわかりやすく周知できていると思います。
- ・外部機関や講師等との連携を強化した教育理念・目標・育成人材像を共有され、達成に向けた取り組みを期待します。
- ・社会のニーズについて、どのように集めて、検討したプロセスや結果があれば教えてください。
 - 高校の先生や実習指導者からそれぞれの視点による意見をいただき、学生指導に活かしている。

基準2 学校運営	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【委員の意見】

- ・人事・給与制度は適切な採用基準・規定に乗っ取って採用活動はできている。一方で運用面において、意思決定機能における情報システムの電子化がまだ完備できていないことから、今後の改善に向けた検討に取り組まれることが必要である。
 - 現場において、電子カルテや電子決済システムが普及しており、本校においてもスムーズな意思決定に資するシステムの構築が必要であると考えている。現状では文書による稟議制を整備し対応しているが、電子化も含めて意思決定の効率化を検討していく。
- ・情報システムにおいてデータ量の増加やサーバーの老朽化の為、購入など検討とあるが、個人情報漏洩等、事が発生する前に早急に対応した方が良いのではないかと。
 - サーバーの老朽化は喫緊の課題であり、検討している状況である。現時点では、システムの観点・運用する教職員の観点から個人情報保護のためのリスク管理を行う

ている状況である。

- 教員を含め、全ての職員で意思統一し、一丸となった学校運営に取り組んでいただきたい。

基準3 教育活動	評価	適切
----------	----	----

【委員の意見】

- 事業計画やシラバスを作成され、臨床現場にも共通認識のうえ指導者からの意見も反映され取り組まれている。
- シラバスの改善も大切だが、学生がどれだけ各科目の目標を理解して取り組めているのか把握することも重要ではないか。
 - すべての科目では無いが、主要な科目において講義後のワークシートの課題や小テストの実施で、知識の定着と理解の確認を行なっている。
- 多様化した学生への対応が迅速かつ丁寧にできるように組織として検討する必要性を感じます。外部専門家との情報共有や情報開示への検討も併せて必要と感じます。
 - 現在も、対応が必要な学生においては保護者や出身高校と連携を取りながら、必要な場合はスクールカウンセラーの先生に相談し外部の専門家あるいは医師に対応を相談する場合もある。
- シラバス作成のための工夫や分析など、学生からの視点を含め「どのような取り組みが理解を得るために有効だったか」を教えてください。
 - 本年度よりシラバスの書式を変更したため、現時点でこれといった有効なものはまだ実感できていないが、各単限ごとの授業内容を示すことにより、学生がいつまで何をしなければならぬのか確認できている。
- 教員の資質の向上への取り組みとありますが、熊本駅前看護リハビリテーション学院作業療法学科の教員は熊本県作業療法士会に研修会はもちろん他職種の研修会など意欲的に参加されている姿をよくお見かけします。
- 学業のみならず、社会人としての人格育成を願う。その為にも教員の適正配置、教育、研修の機会の充実支援を求める。
 - 学内生活基準においても、その後の医療人としてのみならず、社会性の育成につながる内容を盛り込んでおり、入学時から意識を持つ姿勢を養っている。また、学生指導の前に教員教育（教員目標を立てるなど教員研修や教員の面談など）にも力を入

れ、学生の学びと、人としての育成にも充実していきたいと考えている。

- 在学中に色々な資格取得（国試以外）ができる工夫とあるが、とても良い取り組みであると思う。こういう事の発信をどんどんやってはどうか。学校選びのアピールポイントになると思う。
→国家試験受験資格以外の資格取得に関しては、これまで積極的なアピールをしていなかった。指摘いただいたとおり、一つのアピールポイントとして検討していく。

基準4 学修成果	評価	適切
----------	----	----

【委員の意見】

- 国家試験の合格率が他校と比べて高いのか気になります。
→国家試験の取り組みに対して有効な手段、例えば4・5名でのグループによる集団学習と個別学習を使い分けて取り組んでいく、勉強する場合は必ず図表を活用して、分からない事は別ノートにまとめるなどを実施している事が結果に結びついていると考える。
- 国家試験において、全学科が全国平均を下回っている。個別指導、試験対策など課題への努力が求められる。
→今後、国家試験の合格率を上げていくことが重要であり、特に本年度は、臨地実習の一部が学内実習に変更され、例年以上に学びに差が出てくることが予想される。学内日を利用して、計画的に模擬試験や解説学習等に取り組み、正答率の低い学生は、少人数での学習指導を行う予定にしている。また、学習については、3年生になって始めるのでは遅く、入学後より学習習慣をつけ、講義の進度に合わせ知識の定着をはかる必要がある。各学年に合わせた学習指導を行っていききたいと考えている。
- 各学年の達成状況をしっかり評価し、全生徒が一定の基準を満たすことができる様に細やかな指導が必要だと思います。国家試験合格はその積み重ねの結果であり、4年次だけの集中対策だけでは手遅れではないでしょうか。
→1年次より学習を行なった範囲における内容の国家試験過去問への取り組み（調べ学習）を行い、年度末には国家試験で重要になってくる解剖学・運動学・生理学に特化した模擬試験の実施、3年次では4年次で受ける国試模擬試験を受験させ、早めの取り組みを行なっている。
- 国家試験合格率向上に努めていただきたい。
→国家試験は毎年難易度が上がってきていたが、今回の合格率を見ると難易度がかなり

低くなったと思われる中において、不合格者を出す結果となったことに合わせ、近年合格率100%を達成していないことから、これまでの国家試験の指導方法が現在の学生さんにあっていないのではないかと考える。指導内容については、今の学生さんの学びのあり方について、低学年から改めて検討していく必要があると考えている。

- 就職率100%を達成されていることは素晴らしいと感じます。
- 就職率に関し、求人票のデジタル化、学生がスマートフォン等でいつでも閲覧でき、生徒に有益な情報を提供されている学校もあるようで参考にされるとどうでしょうか。
→当校もインターネット上の掲示板に求人情報を掲載し、学生がいつでもスマートフォン等で確認できるようになっている。

基準5 生徒支援	評価	適切
----------	----	----

【委員の意見】

- 適切に就職進路、中途退学等への生徒相談や個別指導がなされている。
- 新型コロナの影響も大きく学習や実習面への例年になく支援対策が必要であったことが考えられる。
→新型コロナ拡大の影響で休校期間が長くなり、学習進度が遅れ、学生の不安も大きかったと思う。各担任は、電話やZoomを使っての面談を行った。また、実習に関しては、延期だけでは対応できなかったため、5月には、学内実習計画を立て、熊本県へ提出するなど対策を行っている。現在も、年度内に本年度のカリキュラムが実施できるよう、時間割調整や実習受け入れ施設との調整を行っている。
- 学生は心身ともに健康である事、理学療法士になりたいという強い意思を持ち続ける事が大切です。問題が発生している時、いかに早期に把握し、対応できるかが重要であるので、日頃から生徒と担任だけでなく、全職員とのコミュニケーションが大切だと思います。
- 外部有識者の協力も得ておられ、細かい支援体制を構築され、保護者との良好な関係もできている。
- 最近の求人傾向（時期・地域・専門分野など）について把握されていることについて教えてください。
→最近の求人傾向に大きな変動はない。作業療法士の求人は安定的に寄せられている。ただ、地元への就職を検討していた学生が就職ガイダンスでの情報収集を期に県外(主

に関東・関西方面)への就職に転向することも増えてきている。

基準6 教育環境	評価	適切
----------	----	----

【委員の意見】

- 新型コロナ感染拡大防止への環境整備の継続が必要となる。
→三密回避、手洗励行、手指消毒、マスク着用、定期的な換気など新たな生活様式への移行に必要な消耗品の購入を継続していく予定である。また、遠隔授業ができる環境の整備を引き続き行っていく。
- 教育環境は設備・機材ともに十分整っていると思います。個々の人間性と技術をしっかりと磨いてほしいと思います。
- 校内の危機管理マニュアルの早急な作成が必要ではないでしょうか。
→文部科学省から危機管理に関するガイドラインやマニュアルの提示を受けており、準拠した形のものを作成中である。

基準7 生徒の募集と受入れ	評価	適切
---------------	----	----

【委員の意見】

- 学生確保に向けた様々な取り組みに努力された。また現代の学生の学力や気質などの傾向を踏まえた学習意欲の向上に向けた授業・個別指導に努力されている。
- 今年度から言語聴覚療法学科も新設され、益々充実した医療専門学校である事を広く情報提供して頂きたい。
→学校案内パンフレットやテレビCMを活用して言語聴覚療法学科の新設によるリハビリテーションの3分野が揃った学校としてのPRに努めている。就職後においてもチーム医療の担い手として他職種・他分野への理解と知識を持ったセラピストとして活躍できる人材の育成に力を入れていきたい。
- オープンキャンパスでのコロナウイルス対策をしっかりと検討する必要があると思われます。
→6月に実施したオープンキャンパスでは以下の対策を実施した。これから夏場にかけて熱中症対策にも気をくばる必要がある。
 - 受付に消毒用アルコールを設置。
 - 換気のため、ドアや窓を開放。
 - 当日使用する検査器具、スリッパや手すり等をアルコール消毒の徹底。

- 希望学科に振り分け、少人数での対応。
 - スタッフのフェイスシールドやマスクの着用。
 - 検温と体調管理の実施。
 - ソーシャルディスタンスを心がけ、教室内での適切な距離の確保。
- 生徒募集活動では、社会人の求職ニーズに対応してハローワークなどと連携はとられていますでしょうか。
 - ハローワークとの連携は行っていないが、社会人が受験しやすい入試区分や学費の免除制度などを創設している。特に令和3年度の学生募集からは、特待生専願や特待生一般試験に加え、自己推薦入試や社会人入試合格者がさらに特待生へ挑戦できるチャレンジ試験などを設けており社会人生徒の取り込みを図っている。
 - 貴学の「強み」を高校生にしっかりと伝える事が必要と思う。
 - 本校の強みを教職員一人ひとりがしっかりと意識して共通認識を持ち、高校生に伝えていく必要がある。本校のパンフレットやホームページの記載や、オープンキャンパスの説明も本校の強みを意識した内容で構成している。今ある強みを洗い出すだけでなく、教材の充実等在校生がうちの学校で学んで良かった思えるような強みも作り出していく必要がある。
 - 今まで以上の活動及び発信が必要と考える。ホームページの更新が少ないように思います。
 - ホームページに関しては全面的なリニューアルを予定している(来年4月公開予定)。また今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため4・5月のオープンキャンパスを中止とし、代替として各学科で学科体験の紹介動画を撮影し6月のオープンキャンパスの予告編として公開したことが新たな取り組みであった。今後も動画を活用していくとともに、ブログやお知らせの更新の頻度を上げて各学科の授業の様子や普段の学生の表情などを伝えていきたいと考えている。

基準8 財務	評価	適切
--------	----	----

【委員の意見】

- 財務基盤の安定に向け、予算・収支等財務状況の明確化に取り組み監査されている。
- 収入と支出のバランスは概ね取れているということは、ハード面改善やその他経費がおさえられていると予想される。やはり、定員を満たすにつけると思われる。

基準9 法令等の遵守	評価	適切
------------	----	----

【委員の意見】

- ・人権、ハラスメント等必要な研修を職員も含み取り組まれた。
- ・個人情報の保護に関しては、危機管理意識を持った対応を周知する必要性が高いと感じる。
→個人情報の管理に関しては学生向け及び教職員向けの指導を日頃から徹底しており、SNS などにおける危険性などの講習も行っており、今後も継続していく。また、個人情報廃棄の際は溶解することとし、教職員が廃棄場にて確認を行っている。

基準10 社会貢献・地域貢献	評価	適切
----------------	----	----

【委員の意見】

- ・社会・地域貢献は地域への発信がなかなかできない現状への課題を察するところである。
- ・立地条件も良く、設備も整っているため研修会等の会場提供など前向きに対応して頂きたい。
→学校の施設の貸し出しに関しては平成30年度に施設利用規定を作成しており、それに則って外部へ開放しているが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、授業以外の会場提供は行っていない。
- ・コロナ禍で引きこもりの方がさらに増加すると予想されています。社会貢献・地域貢献に必要な人材がそろっており、今後も地域から必要とされる学校になると思われます。
- ・積極的な取組みが、地域・社会へ浸透する事が生徒募集へも繋がり、貴学の活性化になると思います。
→看護の日や一心祭の際に、教職員と学生が協力して地域の清掃や募金活動などを行っている。今後も地域において学校がどのように貢献していけるか検討していく。
- ・卒業生の施設利用の積極的受け入れが毎回出ている様であるが、明確にした方がいいのではないかと。
→これまでは施設利用の問い合わせに回答していたが、施設利用規定の周知を図るようにしたい。

6 総括

学校関係者評価を通して、本校の教育活動全般における課題点が明確化したことを受け大変有意義な活動であったと考えている。

各評価基準とも、適切または概ね適切であるという評価結果となったが、評価委員からのより良い学校を作っていく為の意見や提案は、今後の課題の解決や円滑な学校運営にとって大変貴重なものであった。

今回の学校関係者評価委員会での各委員のご意見を教職員全体で情報を共有し、より良い教育機関となるよう努力していきたい。

以上